

これまで10件の前向きコホート研究が行われており、多くの研究でその関連が否定されている。日本のデータから、宮城県内14町村に居住する40歳から64歳の男女(29,606人)に対する7年間の追跡調査の結果、パーソナリティ指標とがん発症リスクとの関連はなかった。一方、神経症傾向とがん発症リスクに関して、先行研究(後ろ向きデザイン、前向きデザイン)の結果を因果の逆転により説明できることが示された。また、最新の研究では、スウェーデン・フィンランドの双生児男女59,548人を対象とした30年間の追跡調査の結果、両者の関連が示されなかった。

② がん診断後のパーソナリティと生命予後
=両者の関連なし

これまで10件の前向きコホート研究が行われており、多くの研究でその関連が否定されている。一般地域住民を対象とした最近の大規模な研究(日本、スウェーデン・フィンランド、デンマーク等)においても、両者の関連は示されなかった。国立がん研究センター東病院肺がん患者におけるデータを用いた研究においても肺がん診断後のパーソナリティと生命予後の関連は示されなかった。

③ 抑うつ(抑うつ症状、うつ病、抑うつ気分)とがん発症リスク
=両者の明確な関連は得られていない

これまで10件の前向きコホート研究が行われており、多くの研究でその関連が否定されている。最近研究において、これまでの研究を統合した解析(メタ分析)が実施され、両者には関連を認めなかった。しかし、乳がん発症リスクに焦点を当て、長期間の追跡調査を有する研究を統合した結果のみ、抑うつを有する者は乳がん発症リスクが高くなる結果が示された。

④ 乳がん罹患後の抑うつと生命予後
=両者の関連なし

これまで11件の前向きコホート研究が行われており、多くの研究でその関連が否定されている。最近の研究では、オーストラリアの乳がん罹患者を平均8.2年追跡した結果、両者の関連は示されなかった。

⑤ 肺がん罹患後の抑うつと生命予後
=両者の明確な関連は得られていない

これまで8件の前向きコホート研究が行わ

れている。結果として、一致した結果は得られていない。国立がん研究センター東病院肺がん患者におけるデータを用いた研究において、肺がん診断後の抑うつと生命予後の関連は示されず、両者の関連において、臨床症状が重大な交絡要因となっていることが示された。多くの研究において、研究対象者が少ない、交絡要因の補正が不十分などの問題がある。

D. 考察

心理社会的要因ががん発症/予後に及ぼす影響はない、あるいはあったとしても両者の関連は小さいということが世界的知見となっている。今回系統的レビューを実施し①-⑤の研究テーマ別にまとめると、

- ① 両者の関連なし
- ② 両者の関連なし
- ③ 両者の一致した関連は得られていない
- ④ 両者の関連なし
- ⑤ 両者の一致した関連は得られていないとなった。①②④に関して、「関連なし」とする研究が多かった。③⑤に関して、一致しない結果を示した。その理由として、研究規模が小さい研究を含む点、追跡期間が短い研究等方法的に限界を有する研究を有する点が挙げられる。更なるエビデンスを構築することにより、両者の関連が明確になると考える。

E. 結論

本研究は心理社会的要因(特に、パーソナリティ・抑うつ)とがん発症/予後の関連について検討したが、両者の関連はない、あるいはあったとしても両者の関連は小さい可能性がある。更なるエビデンスを構築することにより、両者の関連が明確になると考える。

F. 健康危険情報

特記すべきことなし。

G. 研究発表

1. 論文発表

1. Tayama J, Nakaya N, et al: Effects of personality traits on the manifestations of irritable bowel syndrome. *BioPsychoSocial Medicine* 6, 20, 2012.
2. Nishi D, Nakaya N, et al: Fish oil for attenuating posttraumatic stress symptoms among rescue workers after

- the Great East Japan Earthquake: a randomized controlled trial. *Psychotherapy and psychosomatics* 81, 315-317, 2012.
3. 曾根稔雅, 中谷直樹, 他: 介護予防サービス利用者における日常生活の過ごし方と要介護認定等の推移との関連. *日本衛生雑誌* 67, 401-407, 2012.
 4. Tayama J, Nakaya N, et al: Effect of baseline self-efficacy on physical activity and psychological stress after a one-week pedometer intervention. *Perceptual and Motor Skills* 114, 407-418, 2012.
 5. Ebihara S, Nakaya N, et al: Impact of blunted perception of dyspnea on medical care use and expenditure, and mortality in elderly people. *Frontiers in physiology* 3, 238, 2012.
 6. Nishi D, Nakaya N, et al: Peritraumatic distress, watching television and posttraumatic stress symptoms among rescue workers after the Great East Japan Earthquake. *PloS One* 7, e35248, 2012.
 7. Shimizu K, Nakaya N, et al: Clinical biopsychosocial risk factors for depression in lung cancer patients: a comprehensive analysis using data from the Lung Cancer Database Project. *Annals of oncology* 23, 1973-9, 2012.
 8. Matsuoka Y, Nakaya N, et al: Concern over radiation exposure and psychological distress among rescue workers following the Great East Japan Earthquake. *BMC Public Health* 12, 249, 2012.
 9. Tomata Y, Nakaya N, et al: Green tea consumption and the risk of incident functional disability in elderly Japanese: the Ohsaki Cohort 2006 Study. *American Journal of Clinical Nutrition* 95, 732-739, 2012.
 10. Niu K, Nakaya N, et al: C-reactive protein (CRP) is a predictor of high medical-care expenditures in a community-based elderly population aged 70 years and over: The Tsurugaya project. *Archives of Gerontology and Geriatrics* 54, e392-7, 2012.
2. 学会発表
 1. 中谷直樹, 他: 乳がん患者における男性パートナーのうつ病リスク. 第22回日本疫学会総会, ポスター発表. 2012. 1, 東京.
 - H. 知的財産権の出願・登録状況(予定を含む。)
 1. 特許取得
なし
 2. 実用新案登録
なし
 3. その他
特記すべきことなし

Ⅲ. 研究成果の刊行に関する一覧表

研究成果の刊行に関する一覧表

書籍（外国語）

著者氏名	論文タイトル名	書籍全体の編集者名	書 籍 名	出版社名	出版地	出版年	ページ
<u>Okamura H</u>	Psychological impact and associated factors after disclosure of genetic test results concerning hereditary nonpolyposis colorectal cancer	Ettarh R	Colorectal Cancer - From Prevention to Patient Care	InTech	Croatia	2012	88-100
<u>Okamura H</u>	Rehabilitation of elderly people with dementia	Wu J	Biomedical Engineering and Cognitive Neuroscience for Healthcare: Interdisciplinary Applications	IGI Global	Pennsylvania	2012	235-242
<u>Ando M,</u> <u>Morita T</u>	How to Conduct the Short-Term Life Review Interview for Terminally Ill Patients.	Lancaster AJ, Sharpe O	Psychotherapy New Research	NOVA Science Publishers	US	101-108	2012

書籍（日本語）

著者氏名	論文タイトル名	書籍全体の編集者名	書 籍 名	出版社名	出版地	出版年	ページ
<u>井上真一郎,</u> <u>内富庸介</u>	B. サイコオンコロジー	日本乳癌学会	乳腺腫瘍学	金原出版株式会社	東京	2012	325-330
<u>内富庸介</u>	サイコオンコロジー領域における抗うつ薬の役割	小山司/監修	Depression Strategy うつ病治療の新たなストラテジー	先端医学社	東京	2012	7-12
<u>井上真一郎,</u> <u>内富庸介</u>	⑥緩和医療におけるせん妄症例B	八田耕太郎、岸泰宏	病棟・ICUで出会うせん妄に診かた	中外医学社	東京	2012	153-167
<u>寺田整司,</u> <u>内富庸介</u>	認知症を伴う糖尿病性腎症患者のケーススタディ	榎野博史	糖尿病×CKD 診療ガイドQ&A	南山堂	東京	2012	167-168
日本総合病院精神医学会がん対策委員会(監		小川朝生/ 内富庸介	精神腫瘍学クリニックエッセンス	創造出版	東京	2012	1-333

修)							
明智龍男	緩和ケアと抑うつが ん患者の抑うつの評価 と治療	「精神科治 療学」編集 委員会	気分障害の治 療ガイドライ ン	星和書店	東京	2012	258-262
明智龍男	がん患者の心のケア- サイコオンコロジーの 役割	NHKラジオ あさいちば ん	NHKラジオあ さいちばん	NHKサー ビスセン ター	東京	2012	100-110
明智龍男	緩和ケアに関する学会 などについての情報- 日本サイコオンコロジ ー学会、日本総合病院 精神医学会	日本ホスピ ス・緩和ケ ア研究振興 財団	ホスピス緩和 ケア白書2012	日本ホス ピス・緩 和ケア研 究振興財 団	東京	2012	71-73
明智龍男	がん患者の自殺、希死 念慮	内富庸介, 小川朝生	精神腫瘍学ク リニカルエッ センス	創造出版	東京	2012	75-87
明智龍男	精神療法	内富庸介, 小川朝生	精神腫瘍学ク リニカルエッ センス	創造出版	東京	2012	167-184
小川朝生	精神腫瘍学コンサルテ ーションこれだけは	小川朝生、 内富庸介	精神腫瘍学ク リニカルエッ センス	社会福祉 法人新樹 会創造出 版	東京	2012	21-28
小川朝生	不穏	小川朝生、 内富庸介	精神腫瘍学ク リニカルエッ センス	社会福祉 法人新樹 会創造出 版	東京	2012	71-74
小川朝生	せん妄	小川朝生、 内富庸介	精神腫瘍学ク リニカルエッ センス	社会福祉 法人新樹 会創造出 版	東京	2012	88-104
小川朝生	認知症	小川朝生、 内富庸介	精神腫瘍学ク リニカルエッ センス	社会福祉 法人新樹 会創造出 版	東京	2012	105-112
小川朝生	神経症状けいれん発 作、末梢神経障害	小川朝生、 内富庸介	精神腫瘍学ク リニカルエッ センス	社会福祉 法人新樹 会創造出 版	東京	2012	145-55
小川朝生	緩和ケアチーム	小川朝生、 内富庸介	精神腫瘍学ク リニカルエッ センス	社会福祉 法人新樹 会創造出 版	東京	2012	262-274
小川朝生	緩和ケアチームに携わ る精神症状緩和担当医 師の現状調査	(公財)日本 ホスピス・ 緩和ケア研 究振興財団 「ホスピス 緩和ケア白 書」編集委 員会	ホスピス緩和 ケア白書2012	(公財)日 本ホスピ ス・緩和 ケア研 究振興財 団	東京	2012	46-51
小川朝生	がん等による慢性疼痛 時のうつ病診察のコツ と処方例	中尾睦宏、 伊藤弘人	日常診療にお けるうつ病治 療指針	医薬ジャ ーナル社	東京	2012	135-148

岡村 仁	再発・転移していることがわかりました。どのように気持ちを整理したらよいですか	日本乳癌学会	2012年版 患者さんのための乳がん診療ガイドライン	金原出版株式会社	東京	2012	134-135
岡村 仁	家族（夫・子ども）とどう向き合えばよいのでしょうか	日本乳癌学会	2012年版 患者さんのための乳がん診療ガイドライン	金原出版株式会社	東京	2012	153-154
岡村 仁	抗がん剤（化学療法薬）やホルモン剤によってうつになることはありますか	日本乳癌学会	2012年版 患者さんのための乳がん診療ガイドライン	金原出版株式会社	東京	2012	161-162
大西秀樹, 石田真弓	家族ケア・遺族ケア	内富庸介, 小川朝生	精神腫瘍学クリニックエッセンス	創造出版	東京	2012	249-254
松原芽衣, 大西秀樹	遺族ケアの基本姿勢とアセスメントの重要性	近藤卓	PTG 心的外傷後成長-トラウマを超えて	金子書房	東京	2012	69-76
田村恵子, 森田達也, 他		田村恵子, 森田達也, 他	看護に活かすスピリチュアルケアの手引き.	青海社	東京	2012	
森田達也	55緩和医療 1. 疼痛緩和と終末期医療.	日本臨床腫瘍学会	新臨床腫瘍学改訂第3版.	南江堂	東京	2012	673-682

雑誌（外国語）

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
Akechi T, Morita T, Uchitomi Y, et al	Good death in elderly adults with cancer in Japan based on perspectives of the general population.	J Am Geriatr Soc	60(2)	271-6	2012
Terada S, Uchitomi Y.	School refusal by patients with gender identity disorder.	Gen Hosp Psychiatry	34(3)	299-303	2012
Takeda N, Uchitomi Y, et al	Creutzfeldt-Jakob disease with the M232R mutation in the prion protein gene in two cases showing different disease courses: a clinicopathological study.	J Neurol Sci	15;312(1-2)	108-16	2012
Shimizu K, Akechi T, Ogawa A, Uchitomi Y, et al	Clinical biopsychosocial risk factors for depression in lung cancer patients: a comprehensive analysis using data from the Lung Cancer Database Project.	Ann Oncol,	23(8)	1973-9	2012
Saito-Nakaya K, Uchitomi Y, et al	Stress and survival after cancer: a prospective study of a Finnish population-based cohort.	Cancer Epidemiol	36(2)	230-5	2012

Oshima E, <u>Uchitomi Y</u> , et al	Frontal assessment battery and brain perfusion imaging in Alzheimer's disease.	Int Psychogeriatr	24(6)	994-1001	2012
<u>Ogawa A</u> , <u>Shimizu K</u> , <u>Uchitomi Y</u> , et al	Availability of psychiatric consultation-liaison services as an integral component of palliative care programs at Japanese cancer hospitals.	Jpn J Clin Oncol	42(1)	42-52	2012
Ishida M, <u>Onishi H</u> , <u>Uchitomi Y</u> , et al	Psychological Distress of the Bereaved Seeking Medical Counseling at a Cancer Center.	Jpn J Clin Oncol	42(6)	506-12	2012
Asai M, <u>Uchitomi Y</u> , et al	Psychological states and coping strategies after bereavement among spouses of cancer patients: a quantitative study in Japan.	Support Care Cancer	20(12)	3189-203	2012
Yoshida, H. <u>Uchitomi, Y</u> , et al	Validation of the revised Addenbrooke's Cognitive Examination (ACE-R) for detecting mild cognitive impairment and dementia in a Japanese population.	Int Psychogeriatr	24(1)	28-37	2012
Inoue S, <u>Uchitomi Y</u> , et al	A case of adult-onset adrenoleukodystrophy with frontal lobe dysfunction: a novel point mutation in the ABCD1 gene.	Intern Med	51(11)	1403-6	2012
Yamaguchi T, <u>Morita T</u> , <u>Uchitomi Y</u> , et al	Effect of parenteral hydration therapy based on the Japanese national clinical guideline on quality of life, discomfort, and symptom intensity in patients with advanced cancer.	J Pain Symptom Manage	43(6)	1001-12	2012
Fujimori, M. <u>Uchitomi Y</u> , et al	Communication between Cancer Patients and Oncologists in Japan.	New Challenges in Communication with Cancer Patients	301-303		2012
Asai M, <u>Shimizu K</u> , <u>Ogawa A</u> , <u>Akechi T</u> , <u>Uchitomi Y</u> , et al	Impaired mental health among the bereaved spouses of cancer patients.	Psychooncology			In press
<u>Akechi T</u> , et al.	Clinical Indicators of Depression among Ambulatory Cancer Patients Undergoing Chemotherapy	Jpn J Clin Oncol	42	1175-1180	2012
<u>Akechi T</u> , et al.	Perceived needs, psychological distress and quality of life of elderly cancer patients	Jpn J Clin Oncol	42	704-710	2012
<u>Akechi T</u> , <u>Morita T</u> , et al.	Dignity therapy: Preliminary cross-cultural findings regarding implementation among Japanese advanced cancer patients	Palliat Med	26	768-769	2012
<u>Akechi T</u> .	Psychotherapy for depression among patients with advanced cancer	Jpn J Clin Oncol	42	1113-1119	2012

Yamada A, <u>Akechi T</u> , et al.	Quality of life of parents raising children with pervasive developmental disorders	BMC Psychiatry	Aug 20;12	119	2012
Watanabe N, <u>Akechi T</u> , et al.	Deliberate self-harm in adolescents aged 12-18: a cross-sectional survey of 18,104 students	Suicide Life Threat Behav	42	550-560	2012
Shimodera S, <u>Akechi T</u> , et al.	The first 100 patients in the SUN(^_^)D trial (strategic use of new generation antidepressants for depression): examination of feasibility and adherence during the pilot phase	Trials	13	80	2012
Shimizu K, <u>Akechi T</u> , <u>Uchitomi Y</u> , et al.	Clinical biopsychosocial risk factors for depression in lung cancer patients: a comprehensive analysis using data from the Lung Cancer Database Project	Ann Oncol	23	1973-1979	2012
Kinoshita K, <u>Akechi T</u> , et al.	Not only body weight perception but also body mass index is relevant to suicidal ideation and self-harming behavior in Japanese adolescents	J Nerv Ment Dis	200	305-309	2012
Hirai K, <u>Akechi T</u> , et al.	Problem-Solving Therapy for Psychological Distress in Japanese Early-stage Breast Cancer Patients	Jpn J Clin Oncol	42	1168-1174	2012
Asai M, <u>Akechi T</u> , <u>Uchitomi Y</u> , et al.	Impaired mental health among the bereaved spouses of cancer patients	Psychooncology	May 2	online	2012
Ando M, <u>Morita T</u> , <u>Akechi T</u> , et al.	Factors in narratives to questions in the short-term life review interviews of terminally ill cancer patients and utility of the questions	Palliat Support Care	Feb 24:	1-8	2012
Shirai Y, <u>Ogawa A</u> , et al	Patients' perception of the usefulness of a question prompt sheet for advanced cancer patients when deciding the initial treatment: a randomized, controlled trial.	Psychooncology	21	706-13	2012
Yokoi T, <u>Okamura H</u> , et al	Conditions associated with wandering in people with dementia from the viewpoint of self-awareness: Five case reports	Am J Alzheimers Dis Other Demen	27	162-170	2012
Yokoi T, <u>Okamura H</u> , et al	Investigation of eating actions of people with dementia from the viewpoint of self-awareness	Am J Alzheimers Dis Other Demen	27	228-237	2012
Niiyama E, <u>Okamura H</u>	Effects of group therapy focused on the cognitions of new female nurses who experienced violent language and violent acts in the workplace	インターナショナル Nurs Care Res 11: 33-42	11	33-42	2012
Niiyama E, <u>Okamura H</u>	Effects of group therapy focused on the coping strategies of new	インターナショナル Nurs Care Res	11	43-52	2012

	female nurses who experienced violent language and violent acts from patients				
Niiyama E, <u>Okamura H</u>	Effects of group therapy focused on the cognitions of new female nurses who experienced violent language and violent acts by patients	インターナショナル Nurs Care Res	11	83-92	2012
Niiyama E, <u>Okamura H</u>	Relationship between adult children property and self esteem of nursing students	インターナショナル Nurs Care Res	11	93-99	2012
Abe K, <u>Okamura H</u> , et al	Systematic review of rehabilitation intervention in palliative care for cancer patients	Jpn J Clin Oncol		2:131. doi:10.4172/2165-7386.1000131	2012
Miki E, <u>Okamura H</u> , et al	Clinical usefulness of the Frontal Assessment Battery at bedside (FAB) for elderly cancer patients	Support Care Cancer			in press
Yokoi T, <u>Okamura H</u>	Why do dementia patients become unable to lead a daily life with decreasing cognitive function?	Dementia			in press
Matsunaga M, <u>Onishi H</u> , et al	Hypomanic episode during recurrent gastric cancer treatment: report of a rare case and literature review.	Jpn J Clin Oncol	42	961-964	2012
Nakajima N, <u>Onishi H</u> , et al	The Evaluation of the Relationship Between the Level of Disclosure of Cancer in Terminally Ill Patients With Cancer and the Quality of Terminal Care in These Patients and Their Families Using the Support Team Assessment Schedule.	Am J Hosp Palliat Care	In press		
Tada Y, <u>Onishi H</u> , et al	Dissociative stupor mimicking consciousness disorder in an advanced lung cancer patient.	Jpn J Clin Oncol	42	548-551	2012
Ishida M, <u>Onishi H</u> , et al	Psychological distress of the bereaved seeking medical counseling at a cancer center.	Jpn J Clin Oncol	42	506-512	2012
Tada Y, <u>Onishi H</u> , et al	Psychiatric Disorders in Cancer Patients at a University Hospital in Japan: Descriptive Analysis of 765 Psychiatric Referrals.	Jpn J Clin Oncol	42	506-512	2012
Yamagishi A, <u>Morita T</u> , et al	Providing palliative care for cancer patients: The views and exposure of community general practitioners and district nurses in Japan.	J Pain Symptom Manage	43(1)	59-67	2012
<u>Morita T</u> , et al	A region-based palliative care intervention trial using the mixed-method approach: Japan OPTIM study.	BMC Palliat Care	11(1)	2	2012

Igarashi A, <u>Morita T</u> , et al	A scale for measuring feelings of support and security regarding cancer care in a region of Japan: A potential new endpoint of cancer care.	J Pain Symptom Manage	43(2)	218-225	2012
Yamaguchi T, <u>Morita T</u> , et al	Longitudinal follow-up study using the distress and impact thermometer in an outpatient chemotherapy setting.	J Pain Symptom Manage	43(2)	236-243	2012
<u>Akechi T</u> , <u>Morita T</u> , <u>Uchitomi Y</u> , et al	Good death in elderly adults with cancer in Japan based on perspectives of the general population.	J Am Geriatr Soc	60(2)	271-276	2012
Yamagishi A, <u>Morita T</u> , et al	Pain intensity, quality of life, quality of palliative care, and satisfaction in outpatients with metastatic or recurrent cancer: a Japanese, nationwide, region-based, multicenter survey.	J Pain Symptom Manage	43(3)	503-514	2012
Nakazawa Y, <u>Morita T</u> , et al	The current status and issues regarding hospital-based specialized palliative care service in Japanese regional cancer centers: A nationwide questionnaire survey.	Jpn J Clin Oncol	42(5)	432-441	2012
Sato K, <u>Morita T</u> , et al	Family member perspectives of deceased relatives' end-of-life options on admission to a palliative care unit in Japan.	Support Care Cancer	20(5)	893-900	2012
Akiyama M, <u>Morita T</u> , et al	Knowledge, beliefs, and concerns about opioids, palliative care, and homecare of advanced cancer patients: a nationwide survey in Japan.	Support Care Cancer	20(5)	923-931	2012
Choi JE, <u>Morita T</u> , et al	Making the decision for home hospice: perspectives of bereaved Japanese families who had loved ones in home hospice.	Jpn J Clin Oncol	42(6)	498-505	2012
Yamaguchi T, <u>Morita T</u> , <u>Uchitomi Y</u> , et al	Effect of parenteral hydration therapy based on the Japanese national clinical guideline on quality of life, discomfort, and symptom intensity in patients with advanced cancer.	J Pain Symptom Manage	43(6)	1001-1012	2012
Ando M, <u>Morita T</u> , <u>Akechi T</u> , et al	Factors in narratives to questions in the short-term life review interviews of terminally ill cancer patients and utility of the questions.	Palliat Support Care	10(2)	83-90	2012
Kizawa Y, <u>Morita T</u> , et al	Development of a nationwide consensus syllabus of palliative medicine for undergraduate medical education in Japan: A modified Delphi method.	Palliat Med	26(5)	744-752	2012

Akechi T, <u>Morita T</u> , et al	Dignity therapy: Preliminary cross-cultural findings regarding implementation among Japanese advanced cancer patients.	Palliat Med	26(5)	768-769	2012
Matsuo N, <u>Morita T</u> , et al	Physician-reported corticosteroid therapy practices in certified palliative care units in Japan: A nationwide survey.	J Palliat Med	15(9)	1011-1016	2012
Ando M, <u>Morita T</u> , <u>Akechi T</u>	Factors in the short-term life review that affect spiritual well-being in terminally ill cancer patients.	J Hosp Palliat Nurs	12(5)	305-311	2012
Kaneishi K, <u>Morita T</u> , et al	Olanzapine for the relief of nausea in patients with advanced cancer and incomplete bowel obstruction.	J Pain Symptom Manage	44(4)	604-607	2012
Yamagishi A, <u>Morita T</u> , et al	Preferred place of care and place of death of the general public and cancer patients in Japan.	Support Care Cancer	20(10)	2575-2582	2012
Yoshida S, <u>Morita T</u> , et al	Pros and cons of prognostic disclosure to Japanese cancer patients and their families from the family's point of view.	J Palliat Med	15(12)	1342-1349	2012
Yamaguchi T, <u>Morita T</u> , et al	Recent developments in the management of cancer pain in Japan: Education, clinical guidelines and basic research.	Jpn J Clin Oncol	42(12)	1120-1127	2012
Yoshida S, <u>Morita T</u> , et al	Practices and evaluations of prognostic disclosure for Japanese cancer patients and their families from the family's point of view.	Palliat Support Care	Aug 23	[Epub ahead of print]	2012
Kizawa Y, <u>Morita T</u> , et al	Specialized palliative care services in Japan: a nationwide survey of resources and utilization by patients with cancer.	Am J Hosp Palliat Care	Sep 3	[Epub ahead of print]	2012
Kunieda K, <u>Morita T</u> , et al	Reliability and validity of a tool to measure the severity of dysphagia: The food intake LEVEL scale.	J Pain Symptom Manage	Nov 12	[Epub ahead of print]	2012
Shirado A, <u>Morita T</u> , et al	Both maintaining hope and preparing for death: Effects of physicians' and nurses' behaviors from bereaved family members' perspectives.	J Pain Symptom Manage	Nov 15	[Epub ahead of print]	2012
Amano K, <u>Morita T</u> , et al	Effect of nutritional support on terminally ill patients with cancer in a palliative care unit.	Am J Hosp Palliat Care	Dec 12	[Epub ahead of print]	2012
Tayama J, <u>Nakaya N</u> , et al.	Effects of personality traits on the manifestations of irritable bowel syndrome.	BioPsychoSocial Medicine	6	20	2012

Nishi D, <u>Nakaya N</u> , et al.	Fish oil for attenuating posttraumatic stress symptoms among rescue workers after the Great East Japan Earthquake: a randomized controlled trial.	Psychotherapy and psychosomatics	81	315-317	2012
Tayama J, <u>Nakaya N</u> , et al.	Effect of baseline self-efficacy on physical activity and psychological stress after a one-week pedometer intervention.	Perceptual and Motor Skills	114	407-418	2012
Ebihara S, <u>Nakaya N</u> , et al.	Impact of blunted perception of dyspnea on medical care use and expenditure, and mortality in elderly people.	Frontiers in physiology	3	238	2012
Nishi D, <u>Nakaya N</u> , et al.	Peritraumatic distress, watching television and posttraumatic stress symptoms among rescue workers after the Great East Japan Earthquake.	PloS One	7	e35248	2012
<u>Shimizu K</u> , <u>Nakaya N</u> , et al.	Clinical biopsychosocial risk factors for depression in lung cancer patients: a comprehensive analysis using data from the Lung Cancer Database Project.	Annals of oncology	23	1973-9	2012
Matsuoka Y, <u>Nakaya N</u> , et al.	Concern over radiation exposure and psychological distress among rescue workers following the Great East Japan Earthquake.	BMC Public Health	12	249	2012
Tomata Y, <u>Nakaya N</u> , et al.	Green tea consumption and the risk of incident functional disability in elderly Japanese: the Ohsaki Cohort 2006 Study.	American Journal of Clinical Nutrition	95	732-739	2012
Niu K, <u>Nakaya N</u> , et al.	C-reactive protein (CRP) is a predictor of high medical-care expenditures in a community-based elderly population aged 70 years and over: The Tsurugaya project.	Archives of Gerontology and Geriatrics	54	e392-7	2012

雑誌（日本語）

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
矢野智宣, <u>内富庸介</u>	周術期のせん妄の診断と治療術前からリスク因子に対応し、必要に応じて薬物治療を	Life Support and Anesthesia	19(2)	144-8	2012
藤原雅樹, <u>内富庸介</u> , 他	うつ状態に対するlamotrigineの急性効果の検討	臨床精神薬理	15(4)	551-9	2012
<u>内富庸介</u>	がん患者の抑うつと薬物治療	臨床精神薬理	15(7)	1135-43	2012

内富庸介	がん医療におけるコミュニケーションスキル	造血細胞移植	24	2-3	2012
矢野智宣, 内富庸介, 他	うつ病を伴う口腔灼熱感症候群に pregabalin が有効であった1例	精神医学	54(6)	621-3	2012
内富庸介	がん患者の意思決定を支援する	Nurshing Today	27(5)	50-3	2012
明智龍男	メント・モリ	精神医学	54	232-233	2012
明智龍男	がん終末期の精神症状のケア	コンセンサス癌治療	10	206-209	2012
清水 研	QOLを低下させる心の病。早期治療で改善を.	がんサポート	112	50-53	2012
清水 研	緩和ケアにおいて心身医学はどのような貢献ができるか?	心身医学	52	617-622	2012
上山栄子, 小川朝生, 他	反復経頭蓋磁気刺激によるラット海馬における神経細胞新生の増加	精神神経学雑誌	114	1018-1022	2012
松本禎久, 小川朝生	がん患者の症状緩和	Modern Physician	32	1109-1112	2012
小川朝生	がん患者の精神心理的ケアの最大の問題点	がん患者ケア	5	55	2012
小川朝生	がん患者に見られるせん妄の特徴と知っておきたい知識	がん患者ケア	5	56-60	2012
小川朝生	悪性腫瘍 (がん)	精神看護	15	76-79	2012
岡村 仁	がんのリハビリテーションチームで行う緩和ケアー：心のケアとリハビリテーション.	MEDICAL REHABILITATION	140	37-41	2012
岡村 仁	がん患者のリハビリテーション：心のケアとリハビリテーション.	がん看護	17	751-753	2012
花岡秀明, 岡村 仁, 他	地域ボランティア活動の有効性に関する予備的検討ー回想法グループへの参加を通して	作業療法ジャーナル	46	292-296	2012
大西秀樹, 他	鎮静	がん看護	17	172-174	2012
大西秀樹, 他	サイコオンコロジーの重要性	癌と化学療法	39	331-336	2012
大西秀樹, 他	精神症状を有するがん患者の家族ケア	癌の臨床	58	125-130	2012
大西秀樹, 他	遺族へのケア	家族看護	10	60-67	2012
大西秀樹, 他	本当の痛み	ペインクリニック	33	1217-1218	2012

大西秀樹, 他	見過ごされがちながん患者と高齢者のうつ	月刊保団連	1114	17-22	2012
大西秀樹, 他	包括的がんセンターにおける精神腫瘍科の役割	埼玉医科大学雑誌	39	93-96	2012
大西秀樹, 他	がん患者における精神症状へのアプローチ	臨床と研究	89	1215-1222	2012
大西秀樹, 他	精神腫瘍学としてのアプローチ	レジデント	5	22-30	2012
古村和恵, 森田達也, 他	市民の緩和ケアに対するイメージの変化.	緩和ケア	22(1)	79-83	2012
福本和彦, 森田達也, 他	オピオイド新規導入タイトレーションパスががん疼痛緩和治療に与える影響.	癌と化学療法	39(1)	81-84	2012
佐藤泉, 森田達也, 他	在宅特化型診療所と連携する訪問看護ステーションの遺族評価.	訪問看護と介護	17(2)	155-159	2012
井村千鶴, 森田達也, 他	患者・遺族調査の結果に基づいた緩和ケアセミナーの有用性.	ペインクリニック	33(2)	241-250	2012
森田達也	医療羅針盤 私の提言(第50回) 地域緩和ケアを進めるためには「顔の見える関係」を作ることが大切である.	新医療	39(3)	18-23	2012
井村千鶴, 森田達也, 他	地域で行うデスクンファレンスの有用性と体験.	緩和ケア	22(2)	189-194	2012
森田達也	がん性疼痛に対する鎮静薬の副作用対策.	コンセンサス癌治療	10(4)	192-195	2012
森田達也	緩和ケアチームの活動とOPTIMの成果.	Credentials	44	9-11	2012
鄭陽, 森田達也	EAPC (European Association of Palliative Care) 疼痛ガイドラインを読む. 第1回WHO step II オピオイド: 弱オピオイドの使用, WHO step III オピオイド: オピオイドの第1選択.	緩和ケア	22(3)	241-244	2012
森田達也, 他	地域対象の緩和ケアプログラムによる医療福祉従事者の自覚する変化: OPTIM-study.	Palliat Care Res	7(1)	121-135	2012
古村和恵, 森田達也, 他	迷惑をかけてつらいと訴える終末期がん患者への緩和ケア—遺族への質的調査からの示唆.	Palliat Care Res	7(1)	142-148	2012
市原香織, 森田達也, 他	看取りのケアにおけるLiverpool Care Pathway日本語版の意義と導入可能性—緩和ケア病棟2施設におけるパイロットスタディ.	Palliat Care Res	7(1)	149-162	2012
森田達也, 他	地域緩和ケアプログラムに参加した医療福祉従事者が地域連携のために同職種・他職種に勧めること.	Palliat Care Res	7(1)	163-171	2012

森田達也, 他:	在宅緩和ケアを担う診療所として在宅特化型診療所とドクターネットは相互に排他的か？.	Palliat Care Res	7(1)	317-322	2012
森田達也, 他	地域緩和ケアにおける「顔の見える関係」とは何か？.	Palliat Care Res	7(1)	323-333	2012
山田博英, 森田達也, 他	患者・遺族調査から作成した医療者向け冊子「がん患者さん・ご家族の声」.	Palliat Care Res	7(1)	342-347	2012
前堀直美, 森田達也, 他	外来患者のがん疼痛に対する保険薬局薬剤師の電話モニタリング・受診前アセスメントの効果.	ペインクリニック	33(6)	817-824	2012
森田達也	臨床診断より優れた進行がん患者の予後予測モデル 開発予測モデルの再現性は未確認.	MMJ	8(2)	102-103	2012
森田達也	日本ホスピス緩和ケア協会北海道支部第10回年次大会から. 緩和ケア地域介入研究<OPTIM-study>が明らかにしたこと: 明日への示唆.	Best Nurse	23(7)	6-15	2012
岩崎静乃, 森田達也, 他	終末期がん患者の口腔合併症の向き観察研究.	緩和ケア	22(4)	369-373	2012
小田切拓也, 森田達也	EAPC (European Association of Palliative Care) 疼痛ガイドラインを読む. 第2回オピオイドのタイトレーション オピオイドの経皮製剤の役割.	緩和ケア	22(4)	346-349	2012
大野友久, 森田達也, 他	入院患者における口腔カンジダ症に対する抗真菌薬の臨床効果に関する研究.	癌と化学療法	39(8)	1233-1238	2012
今井堅吾, 森田達也	EAPC (European Association of Palliative Care) 疼痛ガイドラインを読む. 第3回 1オピオイドによる嘔気・嘔吐に対する治療, 2オピオイドによる便秘に対する治療, 3オピオイドによる中枢神経症状に対する治療.	緩和ケア	22(5)	428-431	2012
森田達也	緩和ケア領域における臨床研究: 過去、現在、未来.	腫瘍内科	10(3)	185-195	2012
木下寛也, 森田達也, 他	がん専門病院が地域緩和ケアの向上のために取り組んでいることと課題.	癌と化学療法	39(10)	1527-1532	2012
森田達也	クローズアップ・がん治療施設(28) 聖隷三方原病院 腫瘍センター・緩和ケア部門.	臨床腫瘍プラクティス	8(4)	415-417	2012
鄭陽, 森田達也	EAPC (European Association of Palliative Care) 疼痛ガイドラインを読む. 第4回1. アセトアミノフェンとNSAIDsの役割. 2. 鎮痛補助薬の役割. 3. 腎機能障害のある患者へのオピオイドの使用.	緩和ケア	22(6)	522-525	2012
木澤義之, 森田達也, 他	地域で統一した緩和ケアマニュアル・パンフレット・評価シートの評価: OPTIM-study.	Palliat Care Res	7(2)	172-184	2012

山本亮, 森田達也, 他	看取りの時期が近づいた患者の家族への説明に用いる『看取りのパンフレット』の有用性：多施設研究.	Palliat Care Res	7(2)	192-201	2012
森田達也, 他	地域緩和ケアプログラムに参加した医療福祉従事者が最も大きいと体験すること：OPTIM-study.	Palliat Care Res	7(2)	209-217	2012
木下寛也, 森田達也, 他	がん専門病院緩和ケア病棟の運営方針が地域の自宅がん死亡率に及ぼす影響.	Palliat Care Res	7(2)	348-353	2012
森田達也, 他	異なる算出方法による地域での専門緩和ケアサービス利用数の比較.	Palliat Care Res	7(2)	374-381	2012
森田達也, 他	患者所持型情報共有ツール「わたしのカルテ」の評価：OPTIM-study.	Palliat Care Res	7(2)	382-388	2012
白髭豊, 森田達也, 他	OPTIMプロジェクト前後での病院から在宅診療への移行率と病院医師・看護師の在宅の視点の変化.	Palliat Care Res	7(2)	389-394	2012
森田達也, 他	遺族調査に基づく自宅死亡を希望していると推定されるがん患者数.	Palliat Care Res	7(2)	403-407	2012
曾根稔雅, 中谷直樹, 他	介護予防サービス利用者における日常生活の過ごし方と要介護認定等の推移との関連	日本衛生雑誌	67	401-407	2012

